



中日新聞  
夕刊

発行所 中日新聞社  
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号  
〒460-8511 電話 052(201)8811

紙づて

助教として名古屋大学に赴任した時、メンバー十名の研究室の主宰者になった。空っぽの部屋にガス、電気、水道を整備、実験台を設置して研究室をゼロから作った。

面白いもので、研究室の運営には既に自分なりの構想があった。メンバーに課したことが三つある。私の承諾なき研究は禁止。実験結果には自分が一番厳しくあれ。自分の研究を最も大事にせよ。

それぞれには理由がある。合意で決めた研究テーマに答えを出すのは相当難しい。それを重んずることは科学者になるために重要な体験だ。最後まで自分の結果を疑うことは、緻密な実験によって仮説検証する力を養う。メンバー全員が自分を大事にする

研究室の主宰

もり いく 郁恵 森

することは他のメンバーを大事にすることにつながる。これらを実践してメンバー全員が刺激しあって向上心を高め合つ。私の理想とする研究室だ。

私が自分に課したこともある。博士課程の大学院生は必ず直接指導する。現在の研究室は二十名のメンバーからなるが、これ以上大きくすることはないだろう。私が指導できる博士課程大学院生の数が最大で七、八名だからだ。

もう一つ課したことは、学生の言動の変化に細心の注意を払うこと。大学院生と議論しながら片目の隅で他の大学院生を観察するという芸当も常にしている。研究は至極の喜びを与えてくれる代わりに孤独と失敗の試練を与える。精神的にまいる学生も出てくる。未然に問題を回避するのも、私の役目である。  
(名古屋大教授)

2011.6.3

2011.6.3 1面 No.20